

## 第3回「産総研 生命情報科学人材養成コース」シンポジウム

2001年に採択された「産総研 生命情報科学人材養成コース」(文部科学省科学技術振興調整費事業)も4年目を迎え、5カ年計画の後半に入っています。第3回となる今年のシンポジウムでは、被養成者による成果発表はもちろんのこと、養成修了者、講師らも、バイオインフォマティクス研究の最前線の様子を発表いたしました。

また、今年は招待講演に東京大学大学院新領域創成科学研究科の高木利久先生をお迎えし、我が国のバイオインフォマティクス教育の現状と課題についてお話いただきました。バイオインフォマティクスの将来を担う人材の養成現場で苦心されていること、対応策、展望を伺い、人材養成の重要性を再認識するとともに、何が求められているか考える上で大変参考になるご講演でした。



高木先生ご講演の様子

## 【CBRC研究者の発表】

## 《被養成者》

- ◎ 熊谷 俊高 (数理モデルチーム・産総研特別研究員)  
麹菌ゲノム解析と比較ゲノム
- ◎ 本野 千恵 (生体膜情報チーム・産総研特別研究員)  
超好熱菌・好熱菌・常温菌由来相同タンパク質の分子動力学計算  
—耐熱化機構の探索—

## 《養成修了者》

- ◎ 福井 一彦 (大規模計算チーム・研究員)  
糖鎖・糖ペプチドの MS (質量分析) による構造解析: 分子反応  
モデルの構築
- ◎ 長野 希美 (タンパク質機能チーム・研究員)  
酵素触媒機構データベース: EzCatDB  
—酵素機能解明から創薬へ—

## 《講師ほか》

- ◎ 藤渕 航 (配列解析チーム・研究員)  
遺伝子発現プロファイルによる細胞検索システムCellMontage
- ◎ 富井 健太郎 (分子設計チーム・研究員)  
CBRCにおけるCASP 6への取り組み
- ◎ 浅井 潔 (数理モデルチーム・総括研究員)  
Non-coding RNA 配列の検索と判別

*Pioneering  
in Bioinformatics  
from Odaiba to the World*

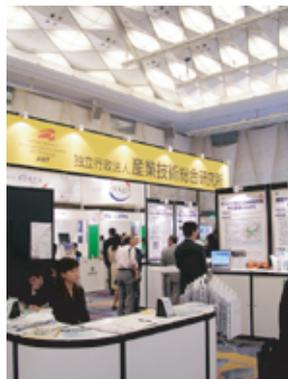


(シンポジウム記録サイト <http://www.cbrc.jp/training/events/h16sympo/index.html>)

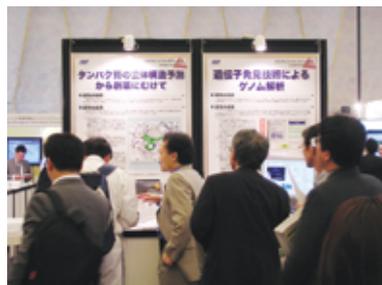
## バイोजパン2004

9/28~30の3日間、『バイोजパン2004』が新高輪プリンスホテル(品川)で開催されました。産総研ブースの中でCBRCも出展し、これまでに研究開発したシステムやツールなどをわかりやすくご紹介しました。

会場には100を超える研究機関、企業などが参加し、多くの来場者でにぎわいました。CBRCは、パネルや液晶モニターを使い、遺伝子発見からその応用にかかわるプログラム、データベース、また近年注目を集めているタンパク質の構造と機能の解明に向け生み出されたwebツールや手法などについて解説しました。



ブースにお立ち寄りいただいた方からは、専門分野の違いを生かした共同研究のお問い合わせをいただいたりし、バイオインフォマティクス研究に対する高い関心が見て取れました。29日に開催されたシンポジウム「分子標的創薬」(座長: 秋山泰 研究センター長)では、韓国Yonsei大学のKyoung Tai No 教授、東海大学の平山令明教授、CBRCの広川貴次チーム長、NECの麻生川稔氏による講演が行われました。



タンパク質構造情報に基づく医薬品開発から体内動態の理論解析まで、インフォマティクス技術の創薬分野における最先端の応用研究結果について活発な議論がなされました。

\*人材養成シンポジウムの予稿集をご希望の方は、CBRC広報 (Tel: 03-3599-8056, E-mail: [cbrc-pr@m.aist.go.jp](mailto:cbrc-pr@m.aist.go.jp)) までご連絡ください。また、バイोजパン2004での配布資料は <http://www.cbrc.jp/cbrc/result/others/index.ja.html> からダウンロードできますのでお使いいただけましたら幸いです。